

# 完了後の評価個表

整理番号	8-1
------	-----

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	山梨県
ふりがな 地域(地区)名	きょうとうほくぐ 峡 東北部	事業実施主体	山梨県
関係市町村	山梨市	管理主体	山梨県
事業実施期間	H14 ~ H19 (6年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 当地区の面積は28,987haであり、甲府盆地の東部に位置する。当地区の北部は甲武信岳や国師ヶ岳を中心とする山岳・丘陵地帯で、その南部には富士川水系一級河川笛吹川が流れている。</p> <p>② 森林の状況 当地区の森林面積は23,602haで地区の81%を占めている。内訳は、人工林が11,579haで49%を占め、間伐等の森林整備が必要となる3齢級(15年生)から8齢級(40年生)の森林が3,673haで約15%を占めている。 また、地区内の森林のうち、水源かん養保安林が11,785ha、土砂流出防備保安林が587haに指定されており、森林の持つ水源かん養機能等の公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が期待されている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区の人工林は、7齢級(35年生)以下の幼齢林が42%と多くを占め、今後、保育、間伐を適正に実施していくことが重要であり、水源涵養機能及び木材生産機能の充実に図るための適切な森林整備が求められている。 しかしながら、当地区内には森林整備の基盤となる林道が未整備な箇所が多く、森林整備の推進に支障を来たしていたため、林業生産基盤の整備や森林の公益的機能の高度発揮等を目的として、森林基幹道の開設を行ったものである。 また、本路線の開設により北原地区、杣口地区、徳和地区、上釜口地区が最短ルートで結ばれ、地域間交通の利便性の向上や、災害時の迂回路としての活用を含め、山村地域の振興、活性化に寄与する。</p> <p>(事業概要)</p> <p>森林基幹道整備            ① 塩平徳和線 車道幅員 4.00m 開設延長 2,241m 利用区域面積 1,334ha            ② 乾徳山線 車道幅員 3.00m 開設延長 2,276m 利用区域面積 1,237ha</p> <p>総事業費 1,303,400千円 (当初総事業費 1,638,000千円)</p>
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 費用対効果分析手法の見直しによる総便益の減少や、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増加した。</p> <p>総便益 (B) 2,707,050千円 (事業採択時 5,787,640千円)            総費用 (C) 2,322,505千円 (事業採択時 1,905,364千円)            分析結果 (B/C) 1.17 (事業採択時 3.04)</p>
-------------------------	--

② 事業効果の発現状況	<p>① 林道開設により、効率的な森林整備が可能となる路網から200m以内の森林面積が180ha増加し、森林施業地への到達時間の短縮及び施業コストの低減が図られた。            ② 乾徳山、小檜山といった、眺望が素晴らしい山々があり、手軽に首都圏から訪れる登山者の多い所であった。林道が整備されたことにより、登山道アクセスの向上や救急時の搬送時間短縮等により、大きな役割を果たしている。</p>
-------------	--

③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>当事業により開設された林道は、山梨県及び市が定めた林道維持管理要綱に基づき管理されている。            また、草刈や側溝掃除等が毎年行われており、維持管理状況は良好である。</p>
---------------------	--

④ 事業実施による環境の変化	<p>当事業により整備された林道の利用区域内の森林は、間伐を主体とした森林整備が効果的に実施されており、健全な森林が育成されている。            また、林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
----------------	--

<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林業労働の軽減、森林施業コストの低減が図られ、森林施業の実施面積が開設前と比べ増加してきたことから、将来の木材供給源としての期待がより一層高まってきている。森林整備が行われる一方、首都圏から近いことで、本林道を通じて山菜採取やハイキング等に森林を利用する観光者が増加し、森林に対する理解が深まりつつある。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林整備を効率的に行うための基盤整備がなされ、森林所有者の林業に対する意識向上が見られ、林道沿線から優先して積極的に作業が行われている。今後は作業道等の整備を精力的に進めて行くことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の意見： 林道が整備されたことにより、森林へのアクセスが改善されたため、適切な森林整備が実施され、水源の涵養や山地災害防止等の公益的機能が増進されるとともに木材の安定供給に寄与している。（山梨県）</li> </ul> <p>当該林道が全線開通することにより森林整備が促進され、公益的機能の向上や林業経営の健全化が期待されるとともに、山村地域の活性化にも重要な役割をはたすものとして事業の促進を強く要望する。</p> <p>また、これまでの本林道の開設により、地域林業の組織化、経営近代化施設の利用が推し進められたことで林業従業者の意欲が向上し、山村地域の振興に寄与している。（山梨市）</p>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 地元の意見にも見られるとおり、林道の整備による適切な森林整備の実施、水源かん養機能等の公益的機能の発揮や、山村と都市との共生・交流を図ることができる施設整備が求められていたことから、事業の必要性が認められる。</li> <li>・ 効率性： 林道の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施に当たってもコスト縮減に努め総事業費の削減が図られたことから、事業の効率性が認められる。</li> <li>・ 有効性： 林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、森林整備を実施するコストも縮減されることから、今後も事業効果の発現が見込まれていること。林道が災害時の迂回路としても機能していること。森林整備により、森林の景観が向上してきていること。以上のことから、事業の有効性が認められる。</li> </ul>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林居住環境整備事業

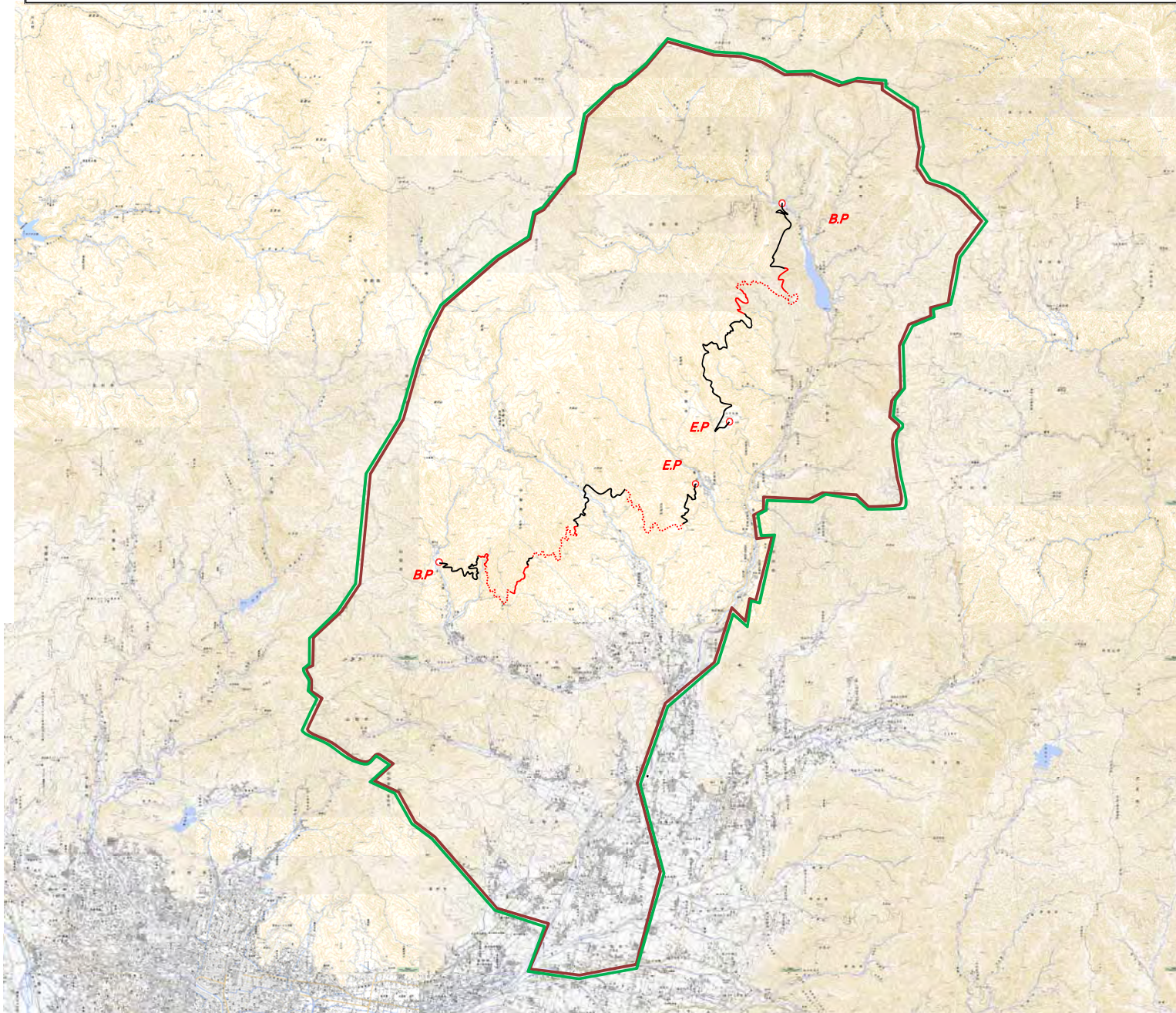
都道府県名: 山梨県

地域(地区)名: 峡東<sup>きょうとう</sup>北<sup>ほくぶ</sup>部

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	2,245	
	木材利用増進便益	650	
	木材生産確保・増進便益	96,501	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	427	
	治山経費縮減便益	1,951,141	
	森林管理等経費縮減便益	3,257	
	森林整備促進便益	652,829	
総 便 益 (B)		2,707,050	
総 費 用 (C)		2,322,505	
費用便益比	$B \div C = \frac{2,707,050}{2,322,505} = 1.17$		

# 森林居住環境整備事業 峡東北部 概要図



凡 例	
区 域	
市町村界	
施工箇所番号	
既設箇所	
施工箇所	
計画箇所	

事業名	路線名
森林基幹道整備（開設）	塩平徳和線
"	乾徳山線